

【評価実施概要】

事業所番号	2775801935
法人名	株式会社ライフパートナー
事業所名	グループホーム アムール平野
所在地	大阪市平野区背戸口1-12-10 (電話) 06-6706-4165
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年7月13日

【情報提供票より】 (18年6月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	9人, 非常勤 5人, 常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (6月29日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東住吉森本病院	松田クリニック	野瀬歯科
---------	---------	---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アムール平野は、地下鉄平野駅や区役所から徒歩圏内にあり、医院と薬局が同居する3階建ての建物の中にある。事業所を運営する法人は大阪府内に4ヶ所の地域密着型サービス事業所を運営している。職員と経営者は一体となって理念に沿った事業を行っており、その運営姿勢には誠実さが窺える。建物内は木目調家具や調度品で統一され、落ち着いた雰囲気を醸し出している。ベランダには芝生とカフェテラス、そして利用者が職員と一緒に育てる野菜や草花の鉢植えを置き、安らぎの空間を設けている。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、その人らしい暮らしの実現に向けて個別の支援を行っている。ケアマネジメントは、記録・計画等が現状に即して丁寧で作成し、実行している。外出や楽しみの支援も毎日の散歩や買物をはじめとして積極的に行っている。また毎朝の近隣の清掃や月1回の古紙回収、だんじりまつり・餅つき、そして書道教室や食事会等に参加し、地域と馴染みの関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題①1階玄関の施錠についてモニターを設置し、昼間は内から手で開閉できるように検討したが、駐車場の車へのいたずらや利用者の外出事故などがあり、継続検討中である。②研修体制を整えて、外部研修の段階的な受講を促進した。内部研修も年間の計画を立て全体会議にて実施している。今後は改善計画と改善実施状況を文書にして残すことが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、ユニットリーダーと管理者が職員の意見を集約し自己評価を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業計画に「運営推進会議を通じ、地域に根ざした運営を進める。」と記載している。社会福祉協議会の会長、町会長、町会女性部長、民生委員、ネットワーク委員会推進委員、地域包括支援担当者、保健福祉センター職員等、地域の関係者及び利用者が参加し意見交換を行っている。運営推進会議での参加者の意見を積極的に取り入れ、地域との連携や地域資源の活用を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月利用者の様子や催しの状況等を記載した「アムールだより」を郵送している。また家族等訪問時には必ず話しかけて利用者の様子を伝え、些細なことでも話していただけるような雰囲気作りに努めている。1ヶ月以上来訪のない時や利用者の状態に変化があったときには家族等に電話連絡をしている。金銭精算書を作成し家族等に確認印をもらっている。家族等からの意見は記録し、職員とともに検討し改善に結び付けている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎朝利用者と一緒に近隣の清掃を行っている。町会の活動では月1回の古紙回収や定期的町内清掃を行っている。また、だんじりまつりや餅つき、そして書道教室や食事会等に参加している。さらに今後は小中学生の課外学習としての訪問や、ボランティアによる民謡教室を月2回開催する予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のある我が家のような生活をめざします。自由な環境を創造します。安心と信頼のホームを実現します。」を理念とし、利用者がその人らしい暮らしを続けることへの支援を大切にしている内容である。また運営方針には地域の医療・福祉事業者との連携及び地域住民との交流を深めることを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念及び基本方針がわかりやすいところに掲示している。新任研修や代表との職員面談時には理念及び基本方針の説明を行っている。会議や利用者との関わりについて話し合う時にも、理念に沿うことを常に確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎朝利用者と一緒に建物周辺の清掃を行っている。町会の活動では月1回の古紙回収や定期的町内清掃、だんじりまつり・餅つき、そして書道教室や食事会等に参加している。今後は小中学校の生徒やボランティア（民謡教室等）との交流を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、ユニットリーダーと管理者が職員の意見を集約し自己評価を行っている。昨年の評価結果を基に業務の見直しを行っている。	○	昨年度の評価結果での主な課題点について職員で話し合い改善方法を検討しているが、検討した内容や改善計画・改善実施状況などを文書にして残すことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画に「運営推進会議を通じ、地域に根ざした運営を進める。」と記載している。社会福祉協議会の会長、町会長、町会女性部長、民生委員、ネットワーク委員会推進委員、地域包括支援担当者、保健福祉センター職員等及び利用者が参加し意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市担当者のアドバイスを受れたり、市が行う研修に積極的に参加している。昨年発足した平野区のグループホーム連絡会の中心的な役割を担っており、今後は連絡会を通じて市担当者との交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいく考えである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の様子や催しの状況等を掲載した「アムールだより」を郵送している。また家族等の訪問時には必ず利用者の様子を伝えている。1ヶ月以上来訪のない時や利用者に変化があったときは家族等に電話をしている。金銭精算書を作成し家族等に確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には来訪時に必ず話しかけ、些細な事でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。家族等からの意見は記録し、職員とともに検討し改善に結び付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表及び管理者が職員と日ごろからコミュニケーションをとる事によって職員の気持ちをより理解することや、一人でストレスを抱え込んだ状況にならないように努力している。各ユニットを兼務できる職員を配置して、異動や離職時の利用者へのダメージを最小限に抑えるようにしている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画（内部・外部研修）を作成し、それぞれの職員の力量に応じて段階的に必要な研修を受講できるように取り組んでいる。研修受講後には毎月の全体会議等で受講者がその内容を報告し、研修報告書は全職員が閲覧できるようにし共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年当ホームからの声かけで平野区のグループホーム連絡会を発足させ、管理者はその中心的な役割を担っている。毎月1回連絡会を開催し、互いの施設を見学し意見交換をするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居する前に職員と馴染みの関係ができるように、できるだけ訪問の機会を増やしている。今後は昼間の体験利用やデイサービス事業の開設などを検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から生活の技や文化を教えてもらう場面が多くもてるように心掛けている。和歌の先生だった利用者から和歌を教わったり、菓子工場を経営していた利用者からお菓子作りを学んだりしている。また洗濯物のたたみ方や上司への話し方・礼儀についてなど教わりながら、職員と利用者がお互いに支え、支えられる関係を日常生活の中で築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時独自のヒアリングシート等を用いて利用者や家族から好みや希望を聞きとっている。また職員の担当制を敷いており、日常的にコミュニケーションを深めている。意思の疎通が困難な利用者にはじっくりと向き合い、発する言葉の意味を探ることなどにより本人の気持ちを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回管理者、計画作成担当者、利用者の担当者などでモニタリングを実施している。少なくとも3ヶ月毎にケアカンファレンスを開催し、家族や利用者の意思を反映した介護計画を作成している。	○	介護計画の説明時に、利用者・家族等の希望を確認しているが、今後はケアチームの一員として、利用者・家族等へケアカンファレンス参加の呼びかけを行う事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは通常月2回実施しているが、利用者の状況に変化がみられる場合は随時開催している。介護計画も必要に応じて見直し、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出支援はもとより、急な知人の葬儀への参列や実家への外泊支援なども行っている。また地域の住民からの車椅子の修理の要望にも対応したこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	建物の1階にある医院と連携しており、夜間でも連絡可能な状況である。また在宅時のかかりつけ医に受診している利用者には家族の同行をお願いしているが、同行できないときには支援を行っている。		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	契約時には利用者が重度化した場合のホームの指針や基本的な考え方を書面を用いて説明している。重度化した場合にも改めて、主治医・家族等・ホーム関係者でカンファレンスを開催し、必要事項や方針を確認し合い、書面捺印の上各1部を保管することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	記録等の個人情報が第三者の目に触れないよう管理している。利用者には原則として姓名で呼びかけをしているが、本人が落ち着くようであれば家族等の了解の下で愛称で呼びかける場合もある。食べこぼしのある利用者にもエプロンは使用せずプライドに配慮している。		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ホームの日課としての時間は一応設定しているが、利用者のペースやその人らしさを優先させることを第一としている。利用者それぞれの生活時間に出来るだけ浴えるように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材などの買物はほぼ毎日利用者と職員が一緒に行っている。食事の準備は各利用者の役割がだいたい決まってお り、安易に職員が手を出すのではなく、利用者がそれぞれのペースで最後まで楽しそうにやり遂げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のそれぞれの状況に対応できるように多様な入浴補助用具を準備している。脱衣場の椅子もベンチではなくゆったりと座れる籐の椅子を用意している。入浴時間・入浴回数・入浴方法なども利用者の好みに応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各ユニット毎にベランダガーデンを設けていて、屋内との高低差が少なく容易に屋外に出れる。特に2階のガーデンはウッドスタイルで広い。ガーデンの一部に芝生を植え、また花や野菜作りが行われ、それらの収穫も利用者の楽しみになっている。ビアガーデンにも使われ男性利用者に喜ばれている。食事の準備・後片付けは2階では半数の利用者が役割を持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の喫茶店や店舗への買物及び散歩は日常的に出かけている。読書が好きな利用者には図書館や書店への利用支援を行っている。利用者の知人の葬儀の参列など急な外出支援にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は各階自由に移動できるが、一階は他のテナントもあるため玄関ホールのみで職員の目が行き届かないため、玄関は常時施錠している。昼間は内から手で開閉できるように検討したが、駐車場の車のいたずらや利用者の外出事故があり、継続検討中である。玄関ホールにはモニターを設置している。	○	建物の設計上玄関に職員を配置することができないためモニターを設置しているが、昼間に玄関に鍵をかけないための更なる取組みが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもと、火災避難訓練を行い消火器の使い方の訓練もしている。緊急時対応マニュアルを作成し、地域の住民との連携も取れている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は利用者全員について記録している。むせやすい利用者にはゼリー食、糖尿病の方には別メニューなどで対応している。食事前には手洗い・うがいを行い、利用者それぞれのペースで食事ができている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは外のベランダガーデンの花々を眺めることができ、明るい雰囲気である。居間にはダイニングテーブルの他L字型ソファとテーブルセットを配置し、職員や他の利用者の視線を意識せずに居心地よく過ごすことができる工夫をしている。玄関前にはプランターに花が植えてあり、玄関を入ると可愛いデザイン椅子が置いてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの家具等を持参していただくように説明を行っている。居室内には利用者がそれぞれに持ち込み又は購入した家具・小物・写真や絵などがある。換気・温度調節は居室で行う事ができる。掃除は職員が利用者とともにやっている。		

※  は、重点項目。